

# JET からの手紙

## 悩みの日々を乗り越えて

新潟県国際課 国際交流員

Bui Phuong Thao (ブイ・フォン・タオ)

2017年7月から新潟県国際課でCIRとして勤務を開始しました。あっという間に時間が経ち、3年目の後半に入りましたが、正直初年には3年も勤務するとは思っていませんでした。振り返れば、1年目は多くの悩みを抱えていました。

1番の悩みは、仕事内容が期待した活動と異なったことでした。私がCIRに応募した理由は、CIRは自国の文化を紹介する楽しいイベントを企画、実施したり、地域住民と身近に交流したりできる仕事だと思ったからです。県庁に着任してみると通訳・翻訳が主な業務でした。普段は庁内で仕事をして、地域住民との触れ合いがほぼないといったところでした。所属によりCIRの業務内容が異なると理解していたのですが、がっかりした気持ちが大きかったです。

そして赴任早々初めての冬が到来。記録的な大雪でした。雪道を滑りそうになりながら歩く毎日。飛ばされそうな暴風。新潟の寒さに慣れず、長い間体調不良が続き、かなり落ち込んでいました。

### 落ち込む日々からの脱出

何とかその暗い日々から抜け出そうと頭を抱えました。私生活では、不健康では仕事ができないと思い、運動を始めたり、食事を変えたりして、健康作りに取り組みました。その他、サークルやボランティア活動に参加したりして、積極的に同僚や市民の方と交流するようにしました。おかげで長い間続いた体調不良が治り、精神的にも元気になりました。

仕事では翻訳・通訳以外に、CIRとしてやるべきことを整理しました。新潟県はベトナム人CIRに何を期待しているのか？ 私は何をしたいのか？ 何ができるのか？ 自分のやりたいことと、新潟県が私に望んでいることを

照らし合わせ、①新潟県とベトナム・ハイフォン市の交流推進、②新潟県民へのベトナムの紹介、③新潟県在住ベトナム人支援という3つの柱で活動して行こうと考えました。そして、予算がない中、すぐにできないことがないか？ を考え、企画提案してみました。採用された企画の1つは、「ベトナムへの図書寄贈」でした。

### 予算がなくてもできた企画

新潟県とベトナム・ハイフォン市は2015年に交流覚書を結んでいました。それがベトナム人の私がCIRとして採用された最も大きな理由だと考えたため、新潟県とハイフォン市の交流を盛り上げることが最も重要な業務だと判断しました。

当企画は、県民に募集をかけ、本を寄付してもらい、その本を日本語教育が行われているハイフォン市の学校に寄贈し、日本語学習、日本文化理解の手助けをするというプロジェクトでした。募集チラシの作成から学校や図書館等への案内文の送付、本の受付、仕分け、ベトナムへの梱包・送付を同僚の手を借りながら行いました。今まで3回募集を行い、1,000冊以上ハイフォン市の学校に送りました。ハイフォン市の学校の先生から「もっと送ってほしい」という声をいただき、現在第4弾実施中です。今回は、レベルアップして、本に加え、日本文化紹介品物（民族衣装や伝統おもちゃ、伝統飾り物等）



県民から頂いた本をハイフォン市に寄付

も募集することにしました。現地の子供たちに日本文化の代表的な品物の実物を見てもらい、より日本に興味を持ってもらうことを期待しています。

## CIR としての仕事のやりがい

日越友好関係樹立 45 周年の 2018 年 10 月に、新潟からベトナムへ飛ぶチャーター便が就航され、知事をはじめとする行政団、教育団、経済団等、さまざまな分野における交流団がベトナムに向かいました。私も一員として参加しました。知事とベトナム政府の会談での通訳は貴重な経験でした。他には教育団とともにベトナム・ハイフォン市の学校訪問や「新潟留学フェア in ベトナム」開催に携わってきました。

特に留学フェアが特別な思い出になりました。開催準備の段階から、フェアのチラシ等の資料作成やフェアの広報用フェイスブックページの運営等を任せていただきました。さらに、留学先として新潟県を PR しようと、新潟県で留学中のベトナム人留学生にインタビューし、新潟県の良いところ等を語ってもらい、10 分ほどの動画に



新潟留学フェア in ベトナム

まとめ、留学フェアで上映しました。「新潟留学フェア in ベトナム」は、現地の高校生や先生、保護者で満席でした。私が作った PR 動画を見て、「新潟が良いところだと思った」という現地学生の声をもらい、うれしかったです。同僚と築けた信頼関係、CIR としての仕事のやりがいを実感し、ストレスからの脱出を手助けしてくれたイベントでした。

## 県民への発信、在住ベトナム人支援

「ベトナム」という国の名前をよく耳にしている、実はあまり詳しくない日本人が多くいます。もっと新潟県民にベトナムのことを知ってもらおうと、通常の文化紹介の他に、料理教室や日越関係の現状と課題、ベトナムの社会問題、ベトナム人の就労現状等も追加し、出前講座のメニューを増やしました。学校や公民館で講義することが多いですが、昨年の 10 月に警察署から依頼を受け、現役の警察官の方々に講義をする機会がありました。近年來日するベトナム人の急増



小学校でのベトナム料理教室

に伴い、残念ながら犯罪者が増えており、イメージが悪くなっていますが、その犯罪率を国民性に結び付けず、その背景、理由を知ってほしいとずっと警察官を対象とした出前講座とっていたので非常に良い機会でした。



新潟県在住ベトナム人支援については、2019 年 4 月から週 1 回新潟県国際交流協会で外国人相談窓口のベトナム語通訳として勤務を始めました。在留資格に関することや法律に関すること、行政手続きに関すること等、ベトナム人を含む外国人の生活全般の相談に対応しています。相談者の中には日本語ができる人もいますが、母国の通訳がいることで安心して話ができると言います。相談事業に通訳として携わることで、ほんの少しでも在住ベトナム人の力になれたらと思います。

## 3 年目になった私

悩みの多かった 1 年目の私でしたが、所属の多大なサポートもあり、ストレスの多い時期を乗り越えることができました。今では CIR を続けて良かったと思っています。

微力ながらも所属の新潟県に貢献できるよう、残りの任期を頑張っていきたいと思っています。既存プロジェクトのレベルアップに加え、3つの柱の業務で、新たな活動を企画・提案して行けたらと考えています。現在、新潟県は経済分野や労働分野でもベトナムとの交流を進めて行こうとしています。これからより業務の幅が広がることが楽しみです。また、3年目にもなり、CIR の先輩として、経験を語る機会が増えました。今回の「JET からの手紙」を含め、私の話が他の JET プログラム参加者の皆さんの役に立てたら幸いです。

### プロフィール



ブイフオンタオ  
Bui Phuong Thao

ベトナム出身。CIR 3 年目。ベトナムの大学日本学科卒業後、JICA ベトナム事務所や現地の日系企業で 5 年ほど勤務。CIR への参加は、JICA 青年協力隊への憧れが応募動機でした。将来、警察や弁護士と協力して在住ベトナム人支援に携わりたいです。